

NPO 法人エンド・ゴール活動報告書

1. エンド・ゴール概要

NPO 法人エンド・ゴール

代表 大久保智規 (33 歳 キャリアカウンセラー 作家)

結成 2005 年 7 月

法人化 2006 年 8 月

2. エンド・ゴールの理念

自分の掲げた目標に向かって、自信を持ってチャレンジし続ける若者の育成

他人や社会を大切に考えることのできる若者の育成

次世代リーダーの育成

3. 主な活動

○ちた地域若者サポートステーション

(厚生労働省から委託を受け、一定期間無業の状態にある 15 歳から 39 歳くらいまでの若者に職業的自立を支援することを目的にカウンセラー等のスタッフを配置し、事業を実施している。)

○エンド・ゴールゼミ

(就職や仕事で役に立つことを学ぶ！ということを中心に、心理学や社会のこと、仕事のことを勉強する少人数制の勉強会。成果の出せる自分になりたい人、今将来のことで迷っている人に特にオススメ。)

○フリーステーション

(様々な人と出会い、意見交換などを通して交流を深め、必要に応じてゲストを招き、幅広い分野の情報、学習の場を提供していくニュータイプな学びと出会いの場。)

○ヤング・ジョブ・キャラバン

(半田市・愛知県・商工会議所などと合同した就職イベント。「面接裏必勝法」、「第一印象アップトレーニング」などの面接ロールプレイングを行い、就活生を対象とした活動。)

4. 参加した活動とその概略

○知多みるくライブ

(8月1日にクラシティ半田にて行われた知多みるくライブは100枚のチケットが完売。急遽増席し、約120名の方が参加。知多半島の物産販売とグッズ販売をメイドコスプレしたスタッフが行い話題となった。)

○知多半島コスプレ物産店

(9月5・6日に行われたNPO団体の合同イベント愛フェスにて、知多半島の物産展やライブ・ネットラジオの公開収録などに加えGOア∞スさんと合同で、50人あまりのコスプレゴミ拾い行進も実施。)

○学生企画

「話題性」があり「社会性」があり「コスト」を考えた企画
夏休み後も引き続き活動を延長し、企画完成を目指している。

① 知多みるく with はちみつ

(「知多半島に住んでいる障害者の就労の拡大」をテーマに、半田市にある「社会福祉法人ダブルエッチジェーひまわり」さんにはちみつの瓶のラベル貼りを依頼し、その売上を寄付という形で行うことより、少しでも障害を持った方に働く楽しさを見つけてもらう機会を作る。)

② 知多みるく with 知多半島ご当地マップ

(「知多半島に一人でも多くの人に来てもらおう!」をテーマに、私たちが自ら知多半島の有名なお店や物産、または穴場スポットなど取材しながらマップをつくり Web 上で公開する。)

③ 知多みるく with 牛乳 (みるく)

(「知多半島のみるくと知多みるくのコラボレーション」をテーマに、知多半島内の牛乳会社に知多みるくをパッケージに起用した商品の実現化に向けての交渉。)

5. 活動で印象に残っていること、学んだこと

- エンド・ゴール3周年記念イベント、知多みるくライブ、愛フェスなどへの参加。企画書作りや企画実行などの活動を振り返ると、一言でこの活動が一番印象に残っているとは言えない。やってきた活動全部が印象的で、意味のある活動だった。
- 愛フェスはみんなでコスプレをして、エンド・ゴールの宣伝や知多半島の物産、知多みるくグッズ販売などをした。
- 企画は「知多みるく はちみつ」「知多半島マップ」「知多みるく 牛乳」を1から企画し、企画実行をしてきた。企画書作りでは「誰にどのような目的をもって何を伝えるか」を学んだ。
- エンド・ゴールの方に初めて話を聞いたとき「頑張るって言う人ほど頑張らない」と聞いてから、それまで当たり前に使っていた「頑張る」という言葉がしばらく使えなくなった。このときに人の影響力の強さを実感した。そして、人の話を聞いたり、人と会話することの重要さを改めて感じた。聞くことで自分の考えが変わったり、人と話すことで人の考えが変わったりすることも実感できた。
- 今まではただ流れに身を任せて大勢の中の一人。いわば普通だったけれど、エンド・ゴールのスタッフは私たちとあまり年齢のかわらない若い人たちで、一人一人輝いていて印象に残る人ばかりだった。関わったことにより、今までの自分達に反発したい自分が生まれた。
- このNPOで活動したことによって、普通の大学生では経験できないような貴重な体験をたくさんし、大切な経験を得ることが出来た。

6. 法人への提言

- 企画を一緒にやっていく上で情報が回ってこなかったり、やっと打ち合わせ前日に詳細がわかったりしていたのでもう少し連絡を入れてほしい。
- 企画をやっていく上で、またその企画に参加することで、「エンド・ゴールにはどんな利益がでて社会にはどのように影響されていくか」という

説明がはっきりしていたので、これからも事前の説明などしっかり行ってほしい。

7. 後輩へのメッセージ

- 企画に参加するうえで、自分はこの企画を通してどのように動きたいか、自分は何を目的として参加するのか、また参加した後の反省時に自分ができたことは何だったのか、他の人よりこれだけは一生懸命できたことを振り返ると良いと思う。
- 特に、企画に参加するときは自分なりにエンド・ゴールの意味、「なぜこのようなことをしているのか」というのを整理し自分なりに企画を見に来てくれた人へ伝えられるようにすることが大切。また、その企画に参加してくれた人や見に来てくれた人とのコミュニケーションを大事にするため、なるべく挨拶や掛け声を大切にする。
- 自分もその企画を楽しむという気持ちが一番大事。
- いつ企画の準備があるか、話し合いをするかなどお互いの連絡を知らないと進み具合が悪いので、エンド・ゴールのメンバーと連絡を取れる状態にしておくこと。
- 夏休みに活動するとき事前にみんなの予定を合わせておくのが良い。

